



令和4年8月3日  
水管理・国土保全局  
気象

## 山形県に大雨特別警報発表

山形県に大雨特別警報を発表しました。これまでの大雨で増水して氾濫の危険性が高まっているところがあります。

大雨に関する概要や留意事項を別添の通りお知らせいたします。

### 問い合わせ先

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川保全企画室

企画専門官 木村 (内線 35-462)

代表 03-5253-8111 直通 03-5253-8448

気象庁大気海洋部気象リスク対策課

大規模氾濫対策気象官 福井 (内線 4206)

代表 03-6758-3900 直通 03-3434-9055

# 山形県に大雨特別警報発表

- これまでに経験したことのないような大雨
- 災害がすでに発生している可能性が極めて高く、警戒レベル5に相当
- 命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保

警戒レベル	取るべき行動
5	命の危険 直ちに安全確保！
～＜警戒レベル4までに必ず避難！＞～	
4	危険な場所から 全員避難
3	危険な場所から 高齢者等は避難
2	自らの避難行動 を確認
1	災害への心構え を高める

# 山形県に大雨特別警報発表

- 今後、他の市町村にも特別警報発表の可能性
- 特別警報の発表を待つことなく、避難情報に直ちに従い身の安全を確保
- 今いる場所の危険度を「キキクル（危険度分布）」で確認

## 山形県に大雨特別警報発表(詳細)

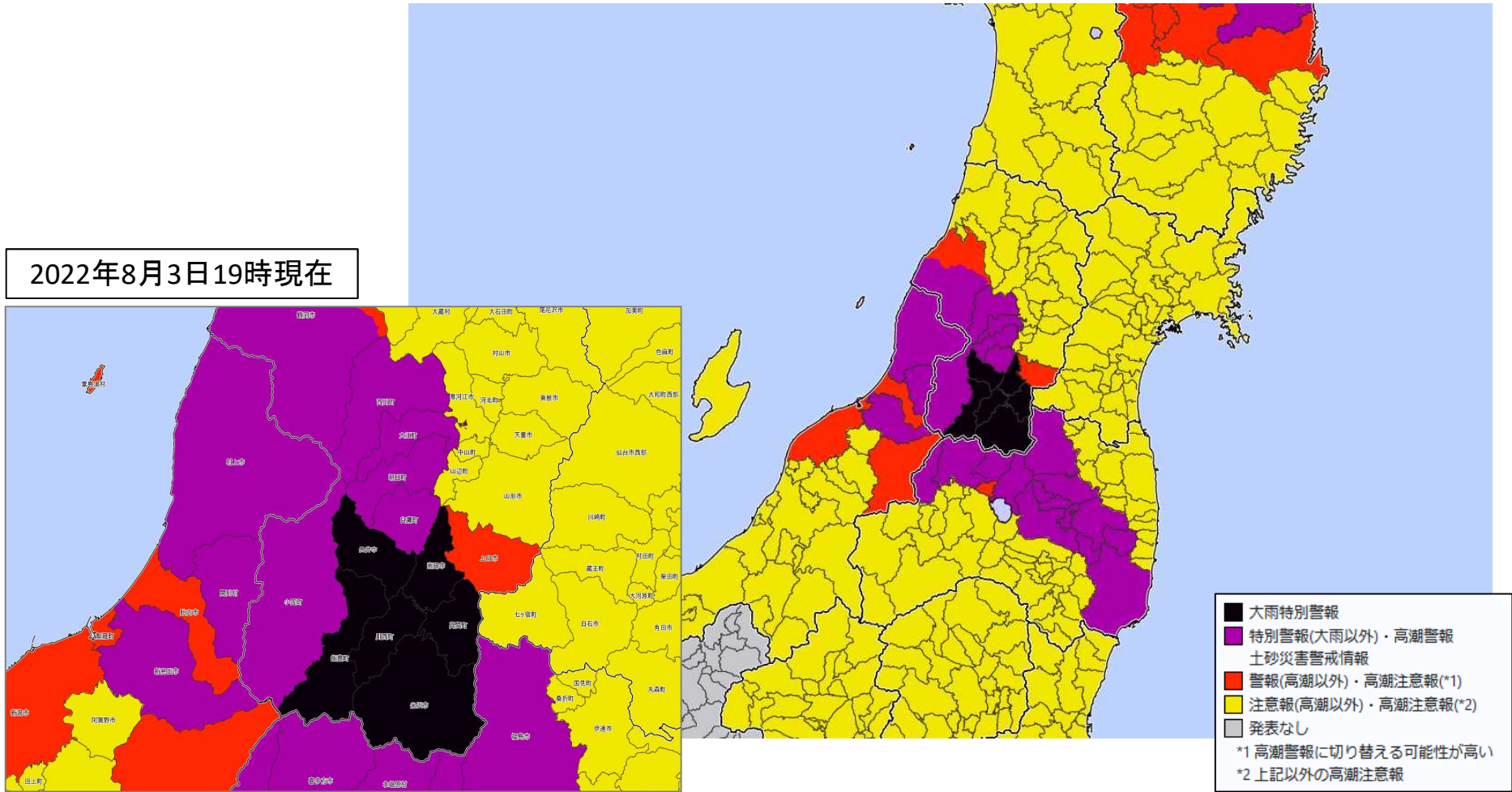
- 山形県の市町に大雨特別警報を発表しました。これまでに経験したことのないような大雨となっています。
- 特に土砂災害警戒区域や浸水想定区域などでは、何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高く、警戒レベル5に相当します。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保しなければならない状況です。

※指定された避難場所への避難がかえって危険な場合には、少しでも崖や沢から離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保する必要があります。

- また、普段災害が起きないと思われるような場所でも最大級の警戒が必要です。
- 今後、他の市町村にも大雨特別警報を発表する可能性があります。特別警報が発表されてから避難するのでは手遅れとなります。自分の命、大切な人の命を守るため、特別警報の発表を待つことなく、地元市町村からすでに発令されている避難情報に直ちに従い身の安全を確保してください。
- 現在夜間であることから、避難する際には周囲の状況を十分に確認してください。
- 地元気象台が発表する地域に応じた詳細な情報を確認するとともに、今いる場所の災害発生の危険度を気象庁HP等の「キキクル(危険度分布)」で確認してください。

# 特別警報・警報の発表状況

2022年8月3日19時現在

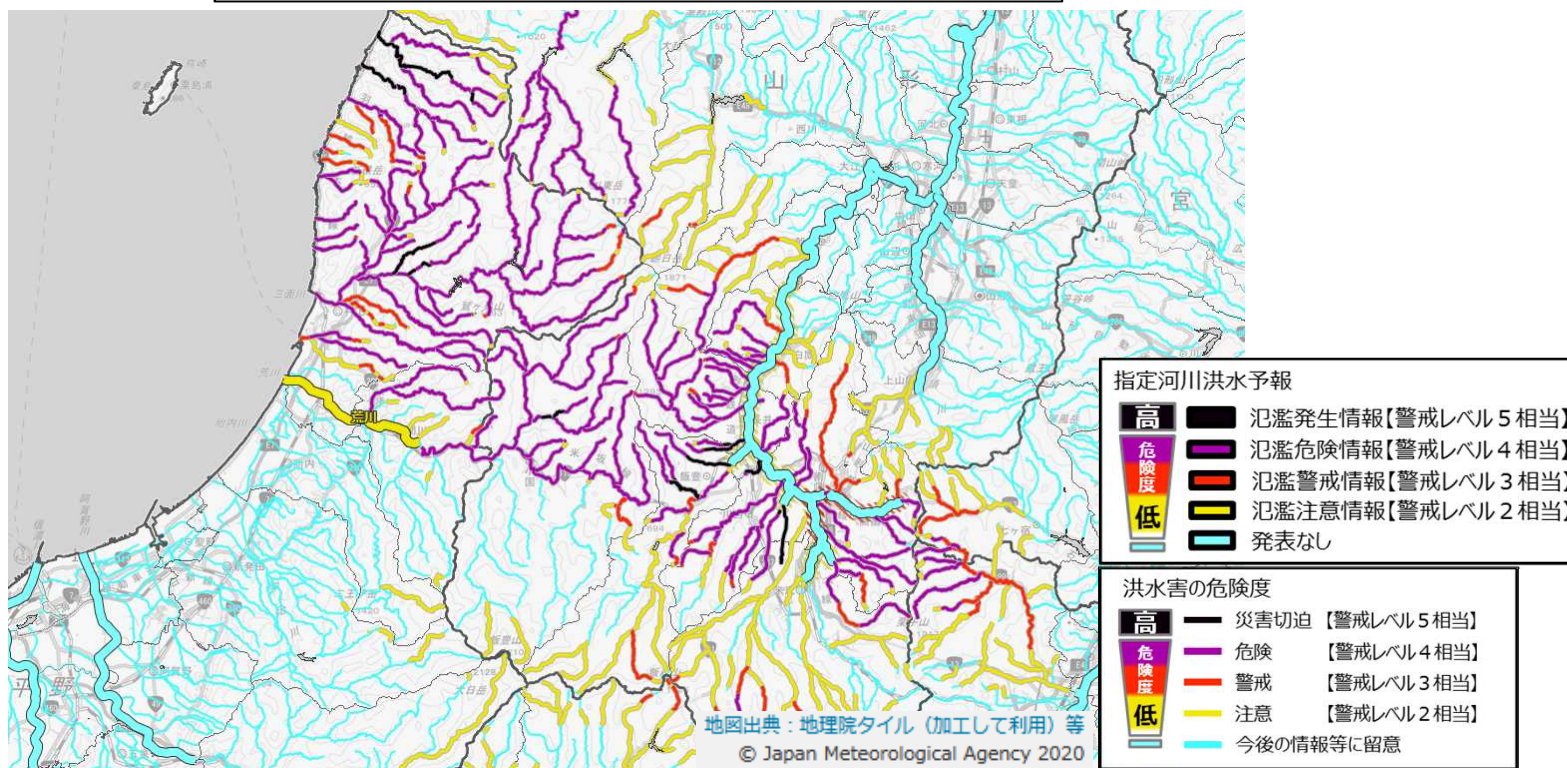


**特別警報・警報が発表されている市町村内のどこで災害発生の危険度が高まっているかを「キキクル（危険度分布）」で確認してください。**

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(気象警報・注意報：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>)

# キキクル(危険度分布)

洪水害 2022年8月3日19時10分

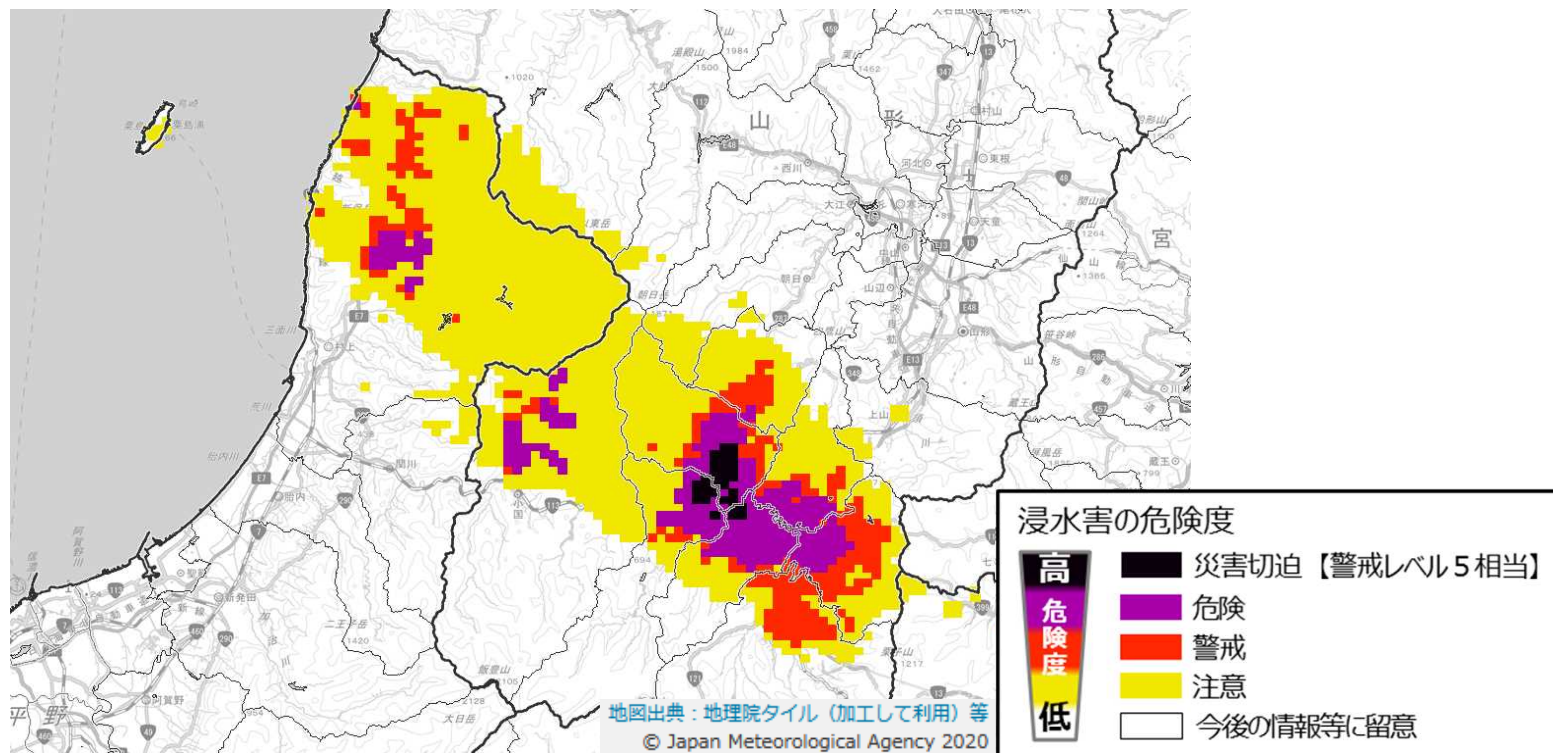


- 警戒レベル5に相当する「災害切迫」（黒）となっている場所では、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況となっています。土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の危険な場所からまだ避難できていない方は、いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等することが重要です。
- 警戒レベル4に相当する「危険」（紫）となっている場所では、重大な災害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。危険な場所にいる方は速やかに安全な場所に避難することが重要です。

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(キキクル(危険度分布) : <https://www.ima.go.jp/bosai/risk/#elements:flood>)

# キキクル(危険度分布)

浸水害 2022年8月3日19時10分

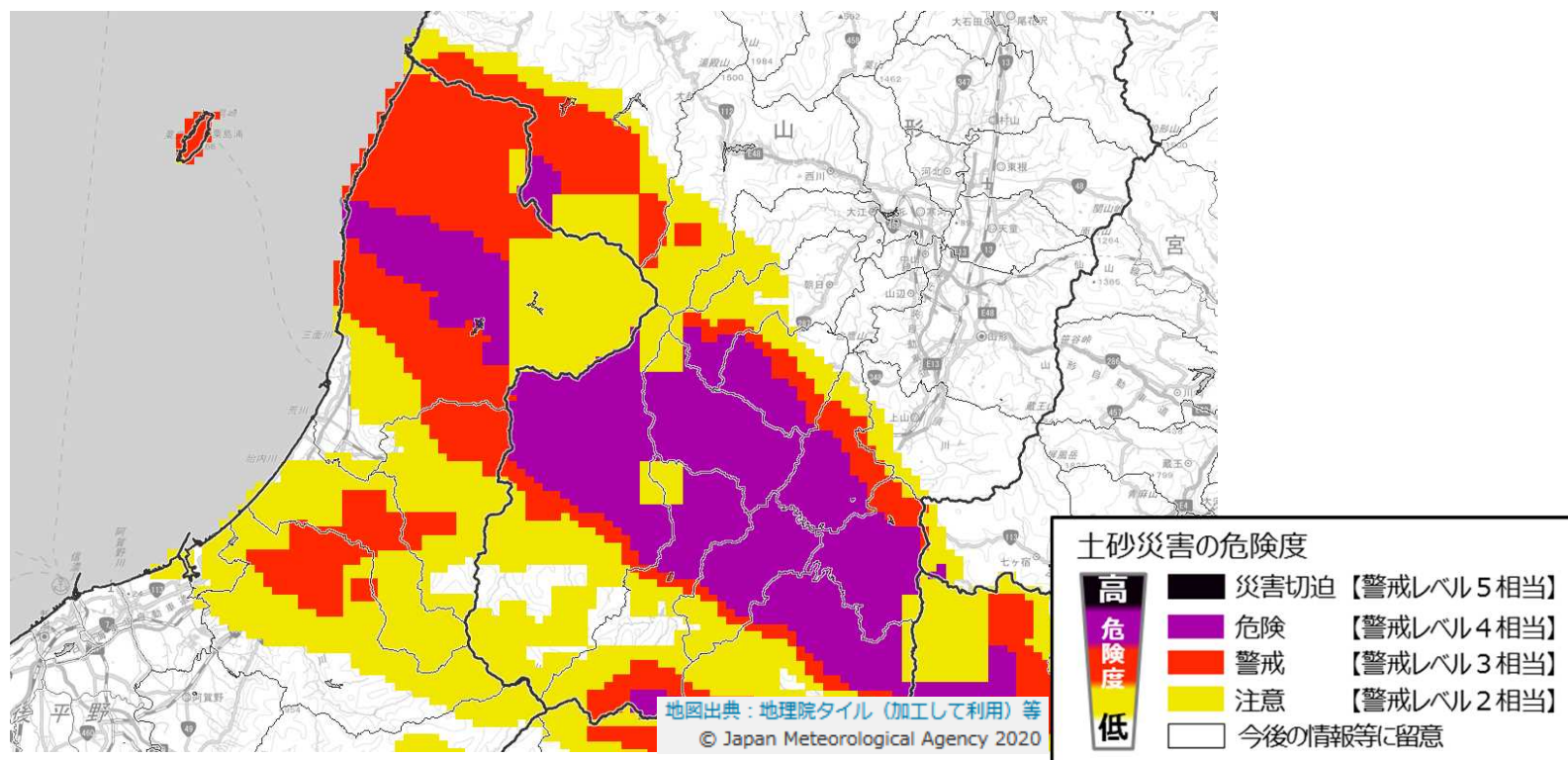


- 警戒レベル5に相当する「災害切迫」（黒）となっている場所では、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況となっています。土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の危険な場所からまだ避難できていない方は、いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等することが重要です。
- 警戒レベル4に相当する「危険」（紫）となっている場所では、重大な災害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。危険な場所にいる方は速やかに安全な場所に避難することが重要です。

今後の予想を含めた最新の情報は地元の气象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(キキクル(危険度分布)：<https://www.ima.go.jp/bosai/risk/#elements:inund>)

# キキクル(危険度分布)

土砂災害 2022年8月3日19時10分

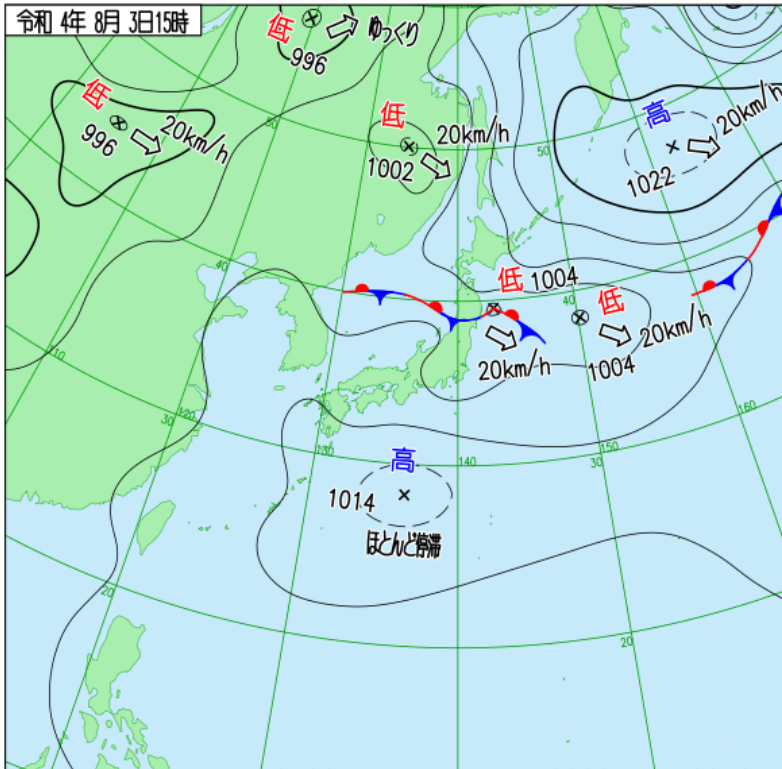


- 警戒レベル5に相当する「災害切迫」(黒)となっている場所では、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況となっています。土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の危険な場所からまだ避難できていない方は、いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等することが重要です。
- 警戒レベル4に相当する「危険」(紫)となっている場所では、重大な災害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。危険な場所にいる方は速やかに安全な場所に避難することが重要です。

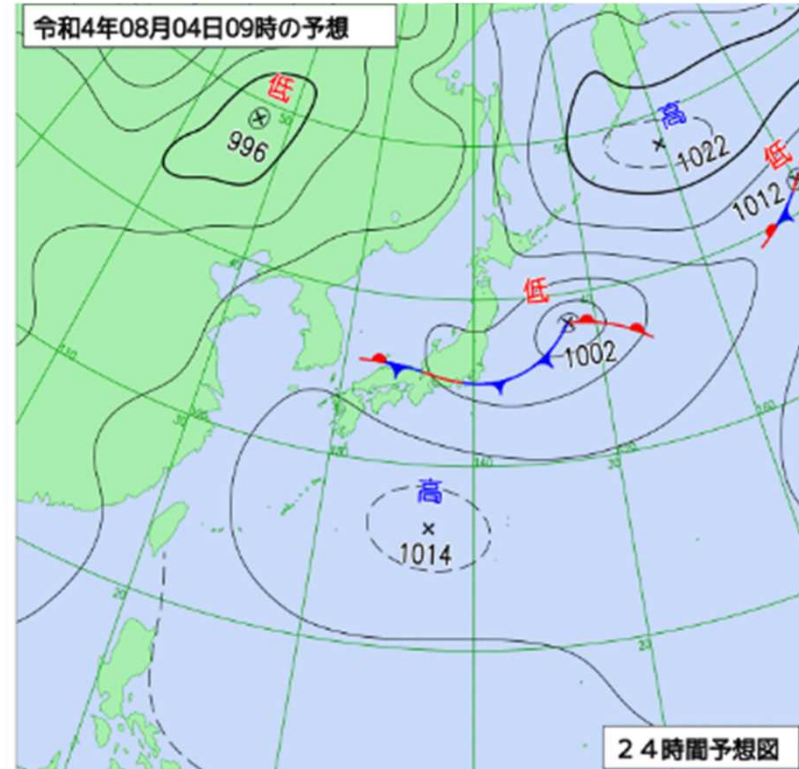
今後の予想を含めた最新の情報は地元の气象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(キキクル(危険度分布)：<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land>)



# 天気図



地上天気図



予想天気図  
(8月4日9時予想)

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(天気図：[https://www.jma.go.jp/bosai/weather\\_map/](https://www.jma.go.jp/bosai/weather_map/))

## 大雨の警報級となる可能性のある期間

日		3日	4日	5日	6日
時		~06	06~24		
東北地方	大雨	■	■		
関東甲信地方	大雨	■	■		
北陸地方	大雨	■	■		
近畿地方	大雨	■	■		

- 大雨の警報級となる可能性のある期間
- 可能性がある ■ 可能性が高い

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
 (気象警報・注意報：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>)

## 今後の雨の予想

地域	4日18時までの 24時間雨量(予想)
東北地方	180
北陸地方	130
関東甲信地方	100
近畿地方	100

単位:ミリ

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(気象情報：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=information&element=information>)

# 河川の状況

8月3日  
19時30時点の資料

氾濫警戒情報を発表している洪水予報河川（国管理河川）（警戒レベル3相当）

きたかみがわ きたかみがわ  
北上川水系北上川上流（東北、岩手県）

氾濫警戒情報が発表されていない河川でも、今後、水位が上昇する可能性があり、警戒が必要です。

※このほか、都道府県が管理する河川でも氾濫の危険が高まっているところがあります。  
都道府県と気象台が共同で発表している最新の指定河川洪水予報等を確認してください。

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。

（気象庁HP：<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>）

河川の水位、ダムの放流量などの情報は「川の防災情報」をご覧ください。

（国土交通省 川の防災情報HP：<https://www.river.go.jp/portal>）

# ハザードマップポータルサイト

- 国土交通大臣又は都道府県知事が洪水浸水想定区域を指定・公表
- 「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、堤防沿いの地域等において、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域。
- 災害から命を守るためには、身のまわりでどんな災害が起きる危険性があるのか、どこへ避難すればよいか、事前に備えておくことが重要。
- 国土交通省では、防災に役立つ様々なリスク情報や全国の市町村が作成したハザードマップを、より便利により簡単に活用できるようにするため、ハザードマップポータルサイトを公開中。
- この区域では、洪水時には避難勧告等に従って安全な場所に確実に立退く必要がある。

## 重ねるハザードマップ (平成26年6月～)

防災に役立つ様々なリスク情報を1つの地図上に重ねて表示

重ねるハザードマップ  
～災害リスク情報などを地図に重ねて表示～

洪水・土砂災害・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示できます。

地図を見る

場所を入力  
例：茨城県つくば市北郷1丁目

ピクトグラムから選択

表示する情報を選ぶ

- 洪水(想定最大規模)
- 洪水(計画規模)はこちら
- 津波
- 土砂災害
- 道路防災情報

重ねたい情報をパネルから選択

## わがまちハザードマップ (平成19年4月～)

全国各市町村のハザードマップを検索

わがまちハザードマップ  
～地域のハザードマップを入手する～

各市町村が作成したハザードマップへリンクします。地域ごとの様々な種類のハザードマップを閲覧できます。

すぐに見る

まちを選ぶ  
都道府県 | 市区町村

①市区町村名を選択

②ハザードマップの種類を選択

- 洪水ハザードマップ  
インターネットで公開している。公開URLを開く
- 内水ハザードマップ  
インターネットで公開している。公開URLを開く
- 高潮ハザードマップ  
インターネットで公開している。公開URLを開く
- 津波ハザードマップ  
インターネットで公開している。公開URLを開く
- 土砂災害ハザードマップ  
インターネットで公開している。公開URLを開く
- 火山ハザードマップ

ハザードマップポータルサイト <https://disaportal.gsi.go.jp/>

ハザードマップ

検索



# (参考) 大雨による災害の留意事項①

## 大雨が降ると…

一瞬にして多くの人命や財産を奪ってしまう  
**土砂災害が発生！**

崖崩れや土石流の発生を確認して  
から避難することはできない。



広島市の土石流による被害の様子  
(平成26年8月20日気象庁撮影)

平成26年8月豪雨では、広島県広島市で土石流が発生し、人的被害をもたらした。

中小河川は**水位が急激に上昇！**

中小河川は、大雨が降ると短時間のうちに急激な水位上昇が起こりやすい。



福岡県朝倉市を流れる北川の様子  
(出典：国土地理院ホームページ)

平成29年7月九州北部豪雨では、福岡県朝倉市の赤谷川、北川等で水位が短時間で上昇して氾濫が発生し、人的被害をもたらした。

大河川は**広範囲・長時間浸水！**

大河川で水が堤防を越えたり堤防が決壊したりすると、広範囲が長時間浸水するなど大きな被害となる。



茨城県常総市の浸水被害  
(資料：国土交通省関東地方整備局)

平成27年9月関東・東北豪雨では、鬼怒川の氾濫で茨城県常総市の約3分の1の面積が浸水し、浸水が概ね解消するまでに10日を要した。

ハザードマップを参考に、  
キキクルや指定河川洪水予報を活用し、

**安全に避難できる早い段階で避難開始を判断**することが重要！

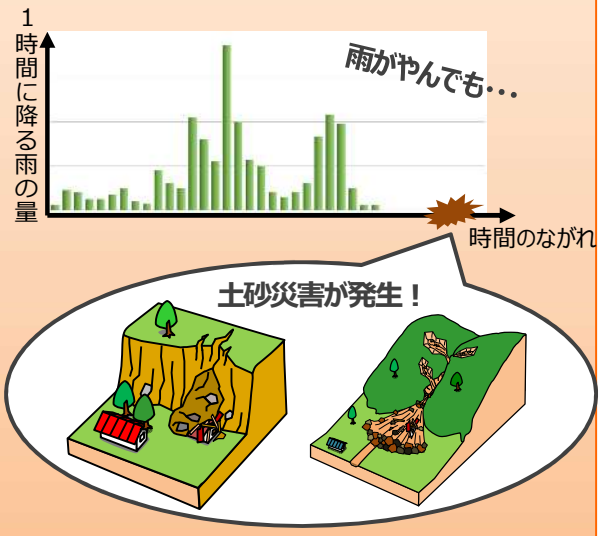


## (参考) 大雨による災害の留意事項②

### 大雨がやんでも…

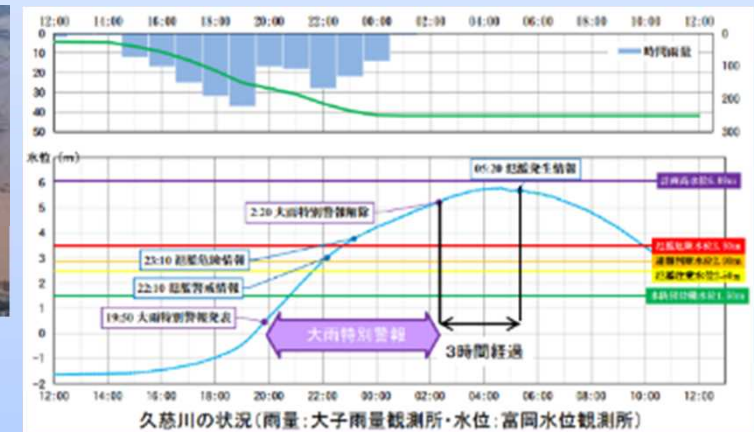
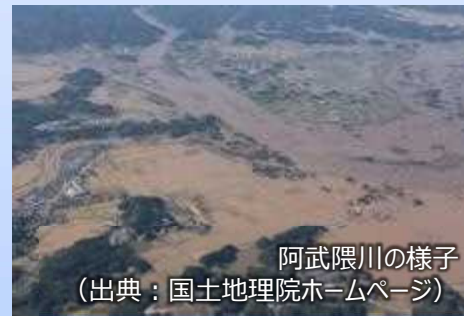
#### 土砂災害の危険が継続！

雨が弱まったりやんだりしても、それまでに降った大雨により地盤が緩んだ状態が続き、土砂災害が発生することがある。



#### 油断禁物！ 大川は時間差で増水

大川は上流の雨により下流で遅れて増水する。このため、大雨が止んだ後であっても、水位が上昇し氾濫することがある。



(出展：「第1回気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」資料に加筆)

令和元年東日本台風では、吉田川、阿武隈川、石田川、蛇尾川、都幾川、越刃川、久慈川、千曲川の7河川で大雨特別警報解除後に氾濫発生情報を発表している。

避難先から家に帰る前に

**自治体の避難情報や気象情報を確認することが大切！**

危険な状況ではなくなったことを確認してから家に帰りましょう。



# 関連資料の掲載場所

※アイコンをクリックすると気象庁HPが表示されます。



@JMA\_bousai

気象庁公式の防災情報アカウントを開設しました。台風接近や大雨のおそれがある場合等に、現況や今後の見通し、防災上の留意点、緊急会見の内容等を解説します。



気象庁の公式チャンネルです。緊急記者会見の様態などをお届けします。最新の防災気象情報については、気象庁ホームページやツイッターをご覧ください。



- 避難行動判定フロー・避難情報のポイント（内閣府（防災担当））  
[http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3\\_hinanjouhou\\_guideline/pdf/point.pdf](http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/point.pdf)
- 新型コロナウイルス感染症が収束しない中での避難について（内閣府（防災担当）・消防庁）  
<http://www.bousai.go.jp/pdf/colonapoint.pdf>



## (参考) 大雨特別警報とは

### 位置づけ・役割

#### <位置づけ>

大雨特別警報は、避難指示に相当する気象状況の次元をはるかに超えるような現象をターゲットに発表するもの。発表時には何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い。

#### <役割>

- (1) 土砂災害警戒区域や浸水想定区域など、災害の危険性が認められている場所からまだ避難できていない住民が直ちに命を守る行動を徹底
- (2) 災害が起きないと思われているような場所においても災害の危険度が高まる異常事態であることの呼びかけ
- (3) 速やかに対策を講じないと極めて甚大な被害が生じかねないとの危機感を防災関係者や住民等と共有することによる、被害拡大の防止や広域の防災支援活動の強化

# (参考) 5段階の警戒レベルと防災気象情報

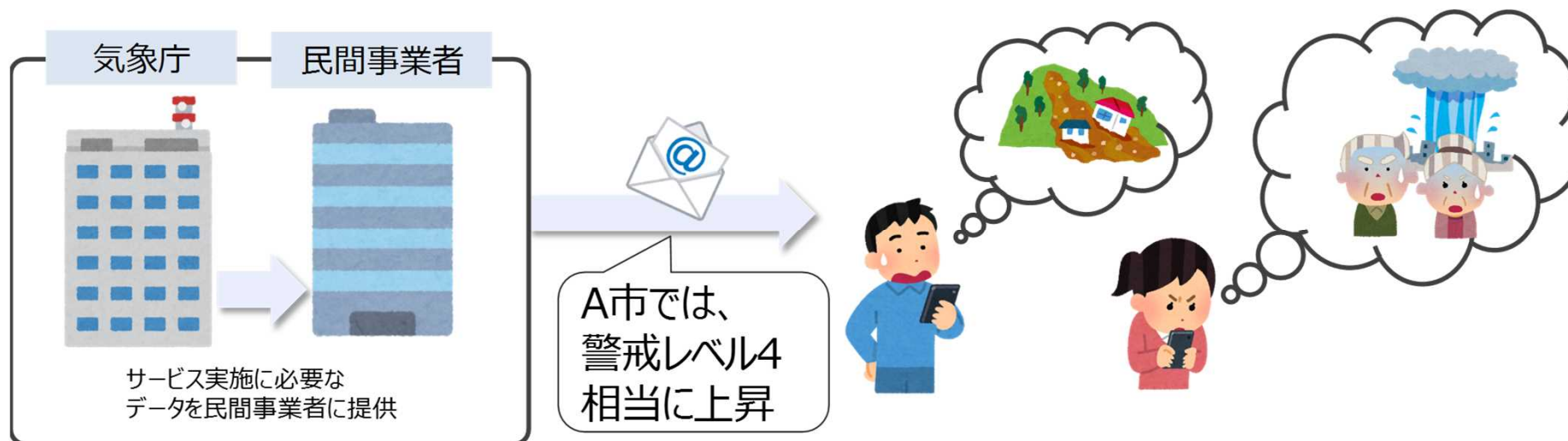
警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報	辛辛クル (危険度分布)	相当する警戒レベル			
5	<b>命の危険 直ちに安全確保！</b> ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	<b>緊急安全確保</b> ※必ず発令される情報ではない	<b>大雨特別警報</b>	<b>災害切迫</b>	<b>氾濫発生情報</b>	5相当		
<警戒レベル4までに必ず避難！>								
4	<b>・危険な場所から全員避難</b> ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	<b>避難指示</b> <b>第4次防災体制</b> (災害対策本部設置)	<b>土砂災害警戒情報</b>	<b>高潮警報</b>	<b>高潮特別警報</b>	<b>危険</b>	<b>氾濫危険情報</b>	4相当
3	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> ・高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	<b>高齢者等避難</b> <b>第3次防災体制</b> (避難指示の発令を判断できる体制)	※ <b>大雨警報</b> <b>洪水警報</b>	高潮警報に切り替える可能性が高い <b>注意報</b>	<b>警戒</b>	<b>氾濫警戒情報</b>	3相当	
2	<b>自らの避難行動を確認</b> ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	<b>第2次防災体制</b> (高齢者等避難の発令を判断できる体制)  <b>第1次防災体制</b> (連絡要員を配置)	大雨警報に切り替える可能性が高い <b>注意報</b>  <b>大雨注意報</b> <b>洪水注意報</b>	<b>高潮注意報</b>	<b>注意</b>	<b>氾濫注意情報</b>	2相当	
1	<b>災害への心構えを高める</b>	・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	<b>早期注意情報</b> (警報級の可能性)					

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

## (参考)「キキクル(危険度分布)」の通知サービスについて

- ▶ 土砂災害や洪水等からの自主的な避難の判断に役立てていただくために、危険度が高まったときにメールやスマホアプリでお知らせするプッシュ型の通知サービス※1を実施しています。
- ▶ この通知は市町村からの避難指示等よりも先に届く場合があります。このため、通知を受信したときには、市町村からの避難指示等を確認するとともに、避難指示等が発令されていなくても、市町村内のどこで危険度が高まっているかを「キキクル(危険度分布)」の地図や河川の水位情報等で確認することで、自主的な避難の判断※2・3に活用いただけます。



※1 住民の主体的な避難の判断を支援する取組の一環として、気象庁の協力のもとで、以下のリンク先の5つの事業者が実施するものです。  
([https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ame\\_push.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ame_push.html))。

※2 離れた場所に暮らしている家族に避難を呼びかけることにも活用いただくことができます。

※3 避難にあたっては、指定された避難場所への避難がかえって危険な場合には、少しでも崖や沢から離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所へ移動するなど、自らの判断でその時点で最善の安全確保行動をとることが重要です。